

家庭：家庭での実践を目指し、楽しく生き生きと学ぶ授業

1 MAP を生かした指導の工夫

学習が児童の実生活の中で生きて働く力となるために、題材の最初と最後に家庭での実践を位置付けた小題材となるよう配列を工夫した。また、児童が楽しく生き生きと取り組む授業を目指し、MAPの体験学習サイクルやアクティビティを活用して「実生活と学習内容」「学習内容とゲーム」の関連を図った構成にした。

2 題材名 「楽しい食事をくふうしよう」

3 指導対象学年 6 学年

4 題材の目標

(1) 教科としての目標

栄養や家族のことを考えた献立作りや簡単な調理ができる。

(2) MAP 導入のねらい

友達とかかわる場面を設定したり、家庭科アクティビティを活用したりしながら、友達と学びを共有したり、安心して楽しく生き生きと学習に取り組んだりできる学習環境をつくっていききたい。

5 指導に当たって

家族の一員として家庭生活をよりよいものにしていこうとする実践的態度を養うためには、家庭生活と学習の関連を図ることが大切である。そこで、家庭生活を見つめたり、学習したことを家庭生活に生かしたりすることができるように題材の配列を工夫した。また、児童が課題意識をもって主体的に課題解決に取り組むことができるようにするための手立てとして、振り返りを取り入れ、家庭生活の中での成功や失敗を学習に結びつけ、課題を身近なものとしてとらえることができるようにしたい。振り返りを行う際には、観点を明確にしたり、短時間でできるように工夫をしていきたい。

6 学習計画 (12時間)

小 題 材 名	時数	学 習 内 容
これで夏も元気に	1	夏バテ防止の元気もりもりメニューを考える (本時)
	1	家庭実践の報告会をする
食事作りのくふうとは	2	食事作りのいろいろな工夫について自分の考えた方法で調べ、教え合う
いざ! 調理実習	6	実習の計画をたてる・実習をする・実習を振り返る
休日のランチはおまかせ	1	家族の喜ぶメニューを考える
	1	家庭実践の報告会をする

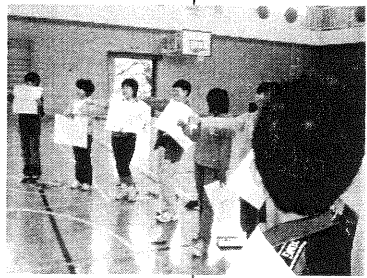

7 本時の指導

(1) 小題材名 「これで夏も元気に」

(2) 本時のねらい

友達とかかわりながら、夏バテ防止の元気もりもりメニューを考えることができる。

(3) 授業の展開

学習の流れ	学習内容と児童の活動	MAPを生かして工夫した点・留意点												
<p>生活の振り返り</p>  <p>課題をつかむ</p> <p>(5分)</p>	<p>1 夏の食欲や食事の傾向について振り返る。</p> <p>①夏の食欲</p> <table border="1" data-bbox="683 506 898 645"> <tr><td>観</td><td>もりもり</td></tr> <tr><td></td><td>ふつう</td></tr> <tr><td>点</td><td>ない</td></tr> </table> <p>②夏の食事の傾向</p> <table border="1" data-bbox="683 689 898 828"> <tr><td>観</td><td>こってり</td></tr> <tr><td></td><td>ふつう</td></tr> <tr><td>点</td><td>さっぱり</td></tr> </table> <p>2 学習計画と本時学習内容を知る。</p> <p>暑い夏を乗り切る「元気もりもりメニュー」を考えて家族に作ってあげよう</p> <p>①夏休みの実践 家族のための食事作り</p> <p>②今日の活動 元気もりもりメニュー作り (夏バテ防止の献立作り)</p>	観	もりもり		ふつう	点	ない	観	こってり		ふつう	点	さっぱり	<p>・本時の学習や家庭での実践に意欲的に取り組めるように、自己の食生活を振り返る場面を設定する ⇒『クイックチェック1』</p> <p>・観点に基づいた振り返りがハンドサインで素早く行える。 ⇒『クイックチェック2』</p> <p>・観点に基づいた振り返りがハンドサインで素早く行える。</p> <p>・一人一人が主体的に取り組めるように、学習計画と本時学習内容を掲示する。また、児童が課題と向き合うための工夫として、全員で音読をする場面を設定する。</p> <p>・夏休みの実践のためのメニュー作りが今日の課題であることを確認し、課題解決に対する意欲付けを図る。</p>
観	もりもり													
	ふつう													
点	ない													
観	こってり													
	ふつう													
点	さっぱり													
<p>体験する (話し合う)</p> <p>(発表する) (聞く)</p> <p>体験する</p> 	<p>3 夏バテを防止するための「元気もりもりメニュー」作りで大事なことについて考え、話し合う。</p> <p>①夏バテを防止するための献立作りで大事だと思うことを考え、グループごとにまとめる。</p> <p>②心の準備ができたグループから発表する。</p> <p>③夏バテ防止のためのワンポイントアドバイスを栄養士から聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つの食品群のおもな働き 「赤」体をつくる 「緑」体の調子を整える 「黄」熱や力のもとになる ・栄養のバランスを考える ・季節や家族の好み ・味のバランス など 	<p>・③の説明に興味をもって聞けるように自分たちなりの考えをもつ時間を設定する。短い時間でできるだけ多くの考えを出すことを伝え、活動に集中できるようにする。 ⇒『フルバリューコントラクト』</p> <p>・互いの考えの良さを認め合う雰囲気か観察をし、全員が安心して、活動に取り組めるように配慮する。</p> <p>・食品の体の中でのおもな働きを印象付けるための手立てとして、説明の時には、三つの食品群と同じ色のカラーボールを使って、児童の視覚に訴えるよう工夫をする。児童が箱の中から取り出した順に説明をする。</p>												

<p>(調べる) (考える) 適用</p> <p>体験する (説明する) (聞く) 適用 一般化</p>	<p>4 ワンポイントアドバイスを生かし ながら、栄養のバランスがとれた 主食に合う「元気もりもりメニ ュー」を作る。</p> <p>①主食を決める。 ・ご飯 ・パン ・麺 など</p> <p>②同じ主食を選んだ友達と興味関 心別グループをつくる。</p> <p>③主食に合うおかずを考える。 ・一人で ・友達と ・ヒントコーナーへ ・アドバイスをもらう など</p> <p>④飲み物やデザートを加えて、「元 気もりもりメニュー」を作る。</p> <p>⑤発表に向けて『セールスポイン ト』をまとめる。</p> <p>5 絵カードを使いながら、メニ ューの『セールスポイント』を発表し 合う。</p> <p>①主食選択の理由 ②栄養のバランス ③家族の好みや味のバランス ④季節やいろいろ など</p>	<p>・献立作りの活動の約束などを確 認しておく。発表タイムでメニ ューの紹介をし合うことを話してか ら、①の活動に入る。</p> <p>・セールスポイントの1つ目とし て、なぜ、その主食にしたのか理 由をメモするように話す。</p> <p>⇒『フルバリューコントラクト』</p> <p>・活動のねらいに合わせて、誰と でもグループが組める雰囲気づく りを大切にする。</p> <p>・ヒントコーナーや資料を活用し たり、教師や友達のアドバイスを 聞きながら、栄養のバランスのよ いメニューを作る。</p> <p>・完成に向けて、不足している栄 養を確かめたり、『セールスポイ ント』をまとめたりするように、 声掛けをする。</p> <p>・短時間で、要点をまとめて話す 力を養うために、『セールスポイ ント』を使って発表する。</p>						
<p>振り返り 適用 一般化</p>	<p>6 本時の振り返りと家庭での実践 に向けて意欲をもつ。</p> <p>①振り返り 「元気もりもりメニュー」作り</p> <table border="1" data-bbox="414 1702 853 1848"> <tr> <td>観</td> <td>バッチリ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>できた</td> </tr> <tr> <td>点</td> <td>もう少し工夫したい</td> </tr> </table> <p>②家庭での実践と夏休み明けの報 告会について知る。 (実践カードの活用)</p>	観	バッチリ		できた	点	もう少し工夫したい	<p>⇒『クイックチェック3』</p> <p>・今日の自分の課題解決の度合い について簡単に自己評価をする。</p> <p>・観点に基づいた振り返りがハン ドサインで素早く行える。</p> <p>・夏休み明けの実践報告会もこの グループで行うことを話し、実践 への意欲付けを図る。</p>
観	バッチリ							
	できた							
点	もう少し工夫したい							

(4) 評価

- ・ワンポイントアドバイスを生かして、栄養のバランスがとれた「元気もりもりメニュー」を作ることができたか。
- ・友達とかかわりながら、課題解決に取り組むことができたか。

8 まとめ

(1) 体験学習サイクルについて

① 題材全体では

家庭生活の観察→課題設定→課題解決→実習→振り返り→家庭での実践→振り返り→実践発表→振り返り→家庭での実践

② 小題材毎では

アクティビティ→振り返り→課題設定→課題解決

③ 小題材間では

前時学習のまとめや感想→次時の学習課題

児童一人一人が体験を通して気付いたり、知識や技能を習得したりできるようにするとともに、学びが次の活動や学習へつながっていくようにするために、体験学習サイクルを活用した。教師が意図的にこのサイクルを回したことにより、体験を通しての気づきを全員で共有し、学習課題として取り上げたりすることができた。与えられた課題ではなく、自分たちの生活と密着した課題を設定したことにより、児童は、主体的に課題と向き合うことができた。また、課題意識をもって取り組む環境づくりをしたことは、「生活を見つめる目」を養うことにもつながった。

(2) フルバリューコントラクトについて

家庭科は、児童の家庭生活と密着している教科である。そこで、児童が安心して活動することができるように、家庭生活の実態を取り上げる場合には、個々の家庭の実情を十分考慮し、各家庭で工夫している点として、肯定的に受け入れる雰囲気大切にされた。消極的だった児童も自分の考えを受け止めてもらえると感じたことで、自分から友達とかかわろうとしたり、協力して活動しようとする態度がみられるようになってきている。

(3) 児童が安心して生き生きと学ぶための工夫について

① 楽しく学習に取り組む雰囲気づくりとして、本時の学習と関連した家庭科アクティビティを活用した。

② 児童の実態に合わせた支援が行えるように、児童の学習に対する心や体の状態、知識や経験などを自己評価できるように、クイックチェックを活用した。

教科の目標を達成する上で、障害となっている要因を取り除く工夫や学び方を学ぶ学習の形態は、他の教科でも活用していけるものと思う。

